

黒ずんだ眼輪筋域

要旨

眼輪筋の黒ずんだ状態は、頭内部の出血あるいはその恐れを示す。また、しばしば膝痛、眼底出血、坐骨神経痛とが組み合わさっている。このような場合は脊柱、頸部筋膜、頭皮の解放に全力を上げるべきである。

事例と治療例

ある人、このごろ目の周りが黒いのである。それも、一段とひどい。そして先日、ころんで右目の周りは傷だらけである。

整形でみてもらうと、頭の右内部後方に出血の影がある、と。翌週専門医でみてもらうと、それは消えていて、左後方に出血の影がある、となった。

この患者に対して従来から頸部筋膜、頭皮、脊柱の開放に努めてきたのであるが、この間膝痛はしつこく続いていた。結局、頭部、頸部が一番効果のあるところ、すなわち原因のところ、と思われた。

膝痛あるいは前屈時の膝窩域違和が頸部、後頭窩、アゴの解放で和らぐ事例は多くある。膝通の原因はもちろんいろんな場合があるのであるが、下肢、臀筋の解放で余り改善しない場合は脊柱、頭部、足底足指に重大な問題がある。即ち、ひどく蓄積した緊張あるいは固化である。

整体治療に伴って内出血が起こることがよくある。たとえば歯ぐき、奥歯、指先などである。今回、頭の内部にも同様のことが起こるらしいことが観察された。

その人、きのうあたりから眼輪筋域の黒ずみは薄らいで来て、治療の大筋は正しいと思われた。もちろん直接顔面の解放も行った。

ポイントは“眼輪筋の黒ずんだ状態は、頭内部の出血あるいはその恐れを示す”である。高年齢層の体の痛みの70%は膝であるという調査報告があるが、結局、肉体の老化、疲労の蓄積は膝に顕現するといわなければならない。

こうした進んだ状態においては、治療を進めるにつれ筋膜の問題になってくる。そして筋膜を扱い始めるとスタンダードな押圧反射法ではほとんど解放できない。

解決法は①音を用いる

拍手または患者の体表を叩いて短時間のスリーブの浮動状態をつくり、この間に押圧、けん引などで不可逆状態に変える。

②術者の共鳴反射を用いる

主に頭部、脊柱を共鳴させて患者の開放を導く。共鳴音で確かめることが出来る。グーと押すとポーと音がするのである。

③指、前腕、背部は姿勢反射のメインルートであり、これを術者の姿勢反射と音を用いて解放する。